

女性の本の情報誌・ウィメンズブックス・クラブ会報



ウィメンズブックス

New29号 2008年5月25日

ウィメンズブックスストア ゆう 〒540-0008 大阪市中央区大手前1丁目3番49号 ドーンセンター1F

目次

- 巻頭言 「戦争を生き抜く女たち―国境を越えた連帯をつくる」 森木和美 (1)
- 最新刊情報 新刊本を解説付きでご紹介しています (2)
- ミニコミ・ミニコミ ウィメンズブックスストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の最新情報です (13)
- 編集長の著者インタビュー 「情報からの自立」の著者 結城美恵子さんに聞く (14)
- HOT・FILE (15)
- ウィメンズブックスストア TOP5 (2・3・4月) (16)
- Women's Books からの風 「ウィメンズ ブックス」のニュース・お知らせなどのページです (16)

(本誌内で紹介している価格は、消費税5%を含んでいます)

巻頭言

「戦争を生き抜く女たち―国境を越えた連帯をつくる」

森木和美

「戦争を生き抜く女たち」プロジェクト

昨年从今年のはじめにかけて、三つの展示会とセミナーをウィメンズブックスストア一隣ギャラリーゆうで開催した。現在も地域的な紛争が起きているアフガニスタン、東ティモール、パレスチナの3地域を取り上げ、戦争に生きる女性たちに思いをよせるといふものだった。「戦争を生き抜く女たち」というタイトルは、東京にある「女たちの戦争と平和資料館 (WAM)」がおこなった日本軍とインドネシア軍の性暴力を告発する特別展、「東ティモール・戦争を生きぬいた女たち」のタイトルからいただいた。

この特別展のパネルをお借りして東ティモール展を開催した。東ティモールの子どもたちのために図書館作りをされた中口尚子さんのお話では、東ティモールの新しい独立国の課題が紹介され、今も不安定な状況にあることは変わりないが、女性が図書館長になるなどの事例も紹介いただいた。日本と東ティモールの歴史的関係を知らない参加者が、あらためて戦前日本とアジアの人々との関係が深かったことに驚き、旧日本軍の慰安婦にされた女性たちに思いを馳せる展示となった。

アフガニスタンの展示では、宝塚アフガニスタン友好協会の西垣敬子さんの写真と資料をお借りし、難民時代と今の女性たちの日常生活を知ることが出来た。紛争が激化し難民生活を余儀なくされた時代、女性たちはわりあい自由に縫製の仕事などの生産活動ができたが、皮肉にも少し落ち着きを



▲パレスティナのパンネル展とセミナー風景

が披露され、参加者の女性たちが着てみると、「外はよく見えるし、自分の顔が見られていないという安心感がある」などと意外な着心地のよさが発見された。

パレスチナの展示では、パレスチナの平和のための関西連絡会の清末愛砂さんがパレスチナとヨルダンの難民キャンプの様子を報告してくださった。難民キャンプとはいえ、もうそこは第二の故郷、女性が職業訓練を受けるセンターや縫製の作業所、結婚式、新婚夫婦に新生児が生まれた様子が紹介された。しかし彼女たちは大きな鍵を持っている。紛争が続く故郷、もう破壊されているかもしれないが、いつか自分の家に入るための鍵の模型だ。パレスチナ難民のシンボルに見えた。

今回の展示は、「国境を越えた連帯をつくる」という長期的な目的の第一歩でしかない。しかし、展示されたパネルからは、「国境を越えた連帯をつくる」ことに挑戦している女性たちの「伝えたい」という熱い思いが見えてくる。「しりたいたい」「ききたい」という私たちの呼びかけに十分応えてもらった今、さて、このプロジェクトでは、どのようにその結果を「伝える」ことができるだろうか。

展示した写真の中から代表的なものを選び、状況説明を加えたものをカレンダー形式の冊子にまとめた。展示会に来ることが出来なかった人、もう一度記憶にとどめたい人、関心もなかったが手に取った人のために、ウィメンズブックスストアで販売している。「戦争を生き抜く女たち」の生活を広く伝え、日本の日常の中でこれらの問題を考える材料としたい。紛争地で暮らす人々に思いをよせ、何らかの形で連帯と協力を生むきっかけになればうれしい。



▲発行されたカレンダー (¥630)

最新刊情報

フェミニズム・女性学……(2)
労働・仕事……(4)
女性史・歴史……(4)
家庭・家族・衣食住……(5)
子育て・教育……(6)

こころ・癒し……(7)
セクシュアリティ……(7)
からだ……(8)
自伝・評伝……(8)
セクハラ・暴力……(9)

文学・エッセイ・芸術……(10)
高齢・福祉……(11)
平和・開発・エコロジ……(12)
絵本・子ども……(12)



【フェミニズム・女性学】

アジアから見るジェンダー



田中かず子/編 風行社 2008年1月 2415円
ICU (国際キリスト教大学) COEプロジェクトの一環として開催された国際ワークショップ「アジアにおける人間の安全保障とジェンダー」の成果をまとめたもの。西洋中心的な知の体系を相対化し、かつ「人間の安全保障」のテーマにジェンダーの視点を入れようという壮大な試みである。

イメージ&ジェンダー vol.8



イメージ&ジェンダー研究会/編 彩樹社/発行 星雲社/発売 2008年3月 1260円
ジェンダー視点からアートに切り込む年刊誌「イメ&ジェンダー」が、今年も刊行された。今号の特集は「グローバルイズム」再考。『世界のジェンダーとアート、研究と創造の現場から』というサブタイトルがついている。論文としては「フェミニスト・アートの方法と場」(F.M.V.ダトウイン)など

異なっている社会を 女性学/ジェンダー研究の視座



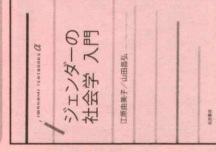
金井淑子/著 明石書店 2008年2月 2415円
女性学/ジェンダー研究の現在を、そのルーツ、教育実践、男女共同参画社会基本法、バックラッシュ、労働など多角的にとらえ、読み解いている。付録の「術語集」・「出版動向」にみる女性学/ジェンダー研究も興味深い。

ケアという思想 ケアその思想と実践1



上野千鶴子、大沢真理他/編集委員 岩波書店 2008年4月 2310円
ケアする側、される側の双方にとつての、ぞましい関係は何か。「よいケア」を実践するにはどうしたらいいのか。「ケアの理論と実践」は、高齢者介護ばかりでなく、障がい者、医療、育児支援の分野にまで応用可能である。

ジェンダーの社会学 入門



江原由美子、山田昌弘/著 岩波書店 2008年4月 2310円
社会の様々な現象を、ジェンダーの視点で読み解いている。「ジェンダーとは?」から始まり、「性別とは?」「女とは?」「さらには、セクシュアリティ、雇用、社会政策などを平易な記述で説明。入門書として最適。

ジェンダーと人権 歴史と理論から学ぶ



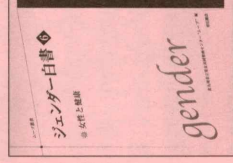
辻村みよ子/著 日本評論社 2008年3月 4725円
この分野の基本書『女性と人権』(1997年)の新装改訂版。旧版以来の動向(男女共同参画社会基本法の制定、ジェンダー学会の創設、各種プログラムや研究の進展)をふまえ、「ジェンダー視点を導入した法学、人権研究の確立」という役割をより強く意識して書かれている。

女性学 2007 vol.15



日本女性学会学会誌15号編集委員会/編 日本女性学会/発行 新水社/発売 2008年4月 2625円
日本女性学会の学会誌が今年も刊行された。特集は「バックラッシュをクイアする〜性別二分法批判の視点から」。ジェンダー・セクシュアリティを語るとき、性別二分論が前提とされがち。バックラッシュへの反論の視点もその図式に流されない「性別二元論批判の視点を共有したバックラッシュ批判」の展開を追っている。

ジェンダー白書6 女性と健康



北九州市立男女共同参画センター「ムーブ」/編 明石書店 2008年3月 2100円
今回のテーマは「女性と健康」。健康とは肉体的、精神的問題だけでなく、社会・政治・経済的にも良好な状態をいう。そのため、グローバルゼーション、少子高齢化、情報化などさまざまな視点から、健康を問い直している。総論は、「なぜ『女性と健康』なのか」(荻野美穂)。その後に有益な各論が多数。

リビニユース この道ひとすじ リブ新宿センター資料集成



リブ新宿センター資料保存会/編 インパクト出版会 2008年4月 7350円
1972年から77年まで、新宿に「リブ新宿センター」があった。日本のウーマンリブ運動の中心を担っていた「ぐるーぷ闘うおんな」などのメンバーが住み込み、運営していた。そこから出された幾多の出版物が製本印刷されたのが本資料集。手書き、ガリ版刷りの資料から、当時の、正面を見ずえた運動の息吹が伝わってくる。

性差とは何か ジェンダー研究と生物学の対話

原ひろ子、上野千鶴子、辻村みよ子他/著
(財)日本学術協力財団 2008年1月 1890円
身体的性差と社会的性差の関連は？ひとこととて、言うのは難しい。そこで本書が書かれた。非常に多様な角度から、セックスとジェンダーの関連を平易に、かつポイントをついて論じている。本書を読むとひとこととおりのことがわかる。それから先は、あげられた参考文献を参照したらい。



フェミニズム・人種主義・西洋

ジョラー・アイゼンステイン/著 奥田のぞみ/訳
明石書店 2008年1月 4725円



普遍的価値といわれるものは西洋が定める価値であり、自由も平等もフェミニズムも西洋の言説だけによっているというのが著者の主張。アフガニスタン空爆の理由に「女性の権利」の擁護をうたった米国は、タリバン崩壊後、女性がいかに飢えていても、ほっているではないかと。

欲望・暴力のレジーム 揺らぐ表象/格闘する理論

竹村和子/編著 作品社 2008年2月 2625円
暴力の合法・非合法の境界が揺らいでいるという。現代社会で、どのような「暴力の物語」が進行しつつあるのか？12の論文により、その「物語」を追う。お茶の水女子大学21世紀COEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」シリーズ第5巻



国家/ファミリーの再構築 人権・私的領域・政策

戒能民江/編著 作品社 2008年2月 2625円
お茶の水女子大学21世紀COEプログラムの成果をまとめた「ジェンダー研究のフロンティア」全5巻シリーズの第1巻目。新自由主義下で社会的・文化的変容が進む中、岐路にたつアジア・日本におけるジェンダー秩序を論じている。「ポスト冷戦期の文化政治とジェンダー」(載錦華)など12論文



ビューティー・サロンの社会学 ジェンダー・文化・快楽

ポーラ・ブラック/著 鈴木眞理子/訳
新曜社 2008年2月 2940円



身だしなみを整えることはフツウだと思いがちながら、そこにお金を使わざることは後ろめたさを覚えるという、アンビバレントな感情を私たちは持っているようだ。この感情をビューティー・サロンを舞台に、「ジェンダー・文化・快楽」の観点から解き明かしたのが本書。なるほど、ビューティー・サロンは、「女らしさ」を読み解く絶好の社会的空間なのだ。

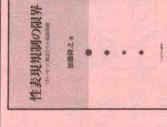
男女共同参画社会を超えて 男女平等・ダイバーシティ(多様性)が受容・尊重される社会の確立に向けて

篠原収/著 新水社 2008年3月 2310円
構造改革、労働市場改革、有期雇用契約の拡大、労働裁量制、「女性活用」…働く現状に打ちよせざる波は大きい。こうした中、男女平等、ダイバーシティ(多様性)が受容される企業、社会の実現が求められる。ダイバーシティ・マネジメントの確立に向けた取り組みや課題を呈示。



性表現規制の限界 「わいせつ」概念とその規制根拠

加藤隆之/著
ミネルヴァ書房 2008年3月 5250円



わいせつ表現・性的有害表現・児童ポルノ表現という性表現規制類型について、日米の判例を比較検討する。性表現とそのタブーの境界はどこにあるのか。法的考察を加えている。

男女共同参画のために一政策提言 東北大学21世紀COEプログラムジェンダー法・政策研究叢書第12巻

辻村みよ子、河上正二、水野紀子/編
東北大学出版会 2008年1月 2310円
男女共同参画社会を実現するための「政策提言集」。政治と公法領域、家族と私法領域、学術、教育政策の三部にわかれて28の政策提言、論文が並ぶ。玉石混交ながら壮観。



変革期に生きる女たち 次世代に語り継ぎたいこと

竹中恵美子/著 伊田久美子/対談
ウィメンズブックスストアゆう/発行 松香堂/発売
2008年4月 1050円



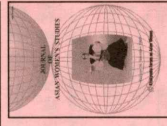
ドーンセンターはどのようにしてできたのか、なぜ必要なのか、必ず引き継がなくてはならないのは何なのか。ドーンセンターの「危機」に際し、設立以前からかかわってきた前館長が熱く語る「ドーンセンター論」(15ページ参照)

少子化とエコノミー ジェンダー研究のフロンティア3 パネル調査で描く東アジア

篠塚英子、永瀬伸子/編著 作品社 2008年3月 2625円
少子化と経済の関係を、東アジアのジェンダー意識を視点におきながら考察。新自由主義が顕著な東アジアで、少子化現象を数量的にとらえたかどうか。ここでいうパネル調査とは、調査対象者を固定して、同一質問をくり返し、変化をみていくというもの。東アジア各国において、国状や結婚、就職といったイベントによって、人々の行動や意識に変化が現れる。その調査をもとに、新自由主義の影響や、専業主婦のゆくえ、少子化問題などを考察している。



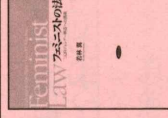
JOURNAL of ASIAN WOMEN'S STUDIES Vol.16



(財)アジア女性交流・研究フォーラム/編
(財)アジア女性交流・研究フォーラム
2007年12月 1050円
英語による日本からの発信を目指した研究誌。
“Gender and Political Policy in Asia”(田村桂子)。
“Policies, Politics and Reproductive Rights in Japan”(岩本美砂子)など

フェミニストの法 二元的ジェンダー構造への挑戦

若林翼/著 勁草書房 2008年2月 3150円
これまでのフェミニズム理論と法実践を検討する。法実践の枠組みとしてのリベラルな国家と法を考察。その枠組み自体を変える必要があると説く。社会の差別構造を打破するフェミニズム法実践を模索する理論書。



性的支配と歴史 植民地主義から民族浄化まで

宮地尚子/編著 大月書店 2008年2月 2940円
学術遺産の多くがヨーロッパ中心主義的、男性中心主義的な思考に偏り、哲学、法学、医学、文学などあらゆる学術分野の基礎となっている。議論の前提として、これらを見直すべきだという。「ヨーロッパ文明批判と性的支配」「性的支配と現地女性」「国内紛争と民族浄化・性暴力」など、今まで不可視のまま見過ごされた問題を直視する論文集。



〔労働・仕事〕

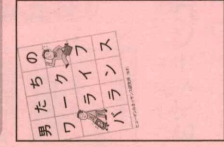
キャリア形成・能力開発

宮崎冴子/著 文化書房博文社 2008年1月 2205円



キャリア形成とは判りにくいが、要するに「生きる力」をつけるということ。働きたくなという若者が増える現在、重要になったキャリア形成。そうしたキャリア教育や人材育成にたずさわる人たちのテキスト。進路指導やニートへの支援の手法も参考に。

男たちのワークライフバランス



ヒューマンリソースナンス研究所/編著 幻冬舎 2008年3月 1365円

仕事と子育ての両立に悩める男たちのたくさんの声。男性の育児休業取得率0.57%の実態と彼らの気持ちの間にどれだけのひらきがあるのか。3600人のアンケート調査からでた男たちの本音をまとめている。巻末に調査結果を掲載。

女子の古本屋

岡崎武志/著 筑摩書房 2008年3月 1470円



個性派がそろう女性古本屋をルポ。知らなかったがここ10年、女性古書店主は増加の一途だそう。どのくらいが商売として成り立っているのかも、知りたいところだが。

キャリアウーマン・ルールズ 仕事にフェロモン戦略は有効か？

横江公美/著 KKベストセラーズ

2008年2月 1575円



「働くいい女」を分析し、新しい「オンナの時代」を生きるルールを伝授。「こんなふうに分析・分類されるのはまっぴら」という人もいるだろう。実は私もそう思うのだけれど…。

ワーキングプア 日本を蝕む病

NHKスペシャル『ワーキングプア』取材班/編 ポプラ社 2007年6月 1260円

評判になったNHKスペシャル『ワーキングプア』の刺激的内容が本になった。

こうして手にする仕事と生活の調和 ワーク・ライフ・バランスへの取り組みのヒントと企業事例

労働調査会出版局/編 (社)全国労働基準関係団体連合会 2008年2月 2100円

ワーク・ライフ・バランス実現のための、「労働時間等の設定」に着目して、先進事例の取組み等を紹介。実務上参考になる。

人口減少社会の家族と地域 ワークライフバランス社会実現のために

樋口美雄/編著 日本評論社 2008年3月 4725円



本書は人口減少社会が地域にどんな問題を引き起こしているか分析し、欧州および日本における地域戦略をとりあげている。

第1部：家族・地域社会の変化と就労 第2部：高齢化社会の諸相 第3部：就労をめぐる諸問題 第4部：人口減少時代の経済社会政策

グローバル化と女性労働の現在 女性労働研究No.52



女性労働問題研究会/編 青木書店 2008年1月 2100円

巻頭：国際比較のなかの日本(大沢真理) 特集1：ILOのグローバル・スタンダード 特集2：パワー・ハラズメントに泣く女性たち 特集3：日本で働く外国人労働者の問題。今号でも、今日的テーマにしっかりと迫っている。

働くこととジェンダー

倉地克直、沢山美果子/編 世界思想社 2008年4月 2310円
「働くこと」をジェンダーの視点で、歴史的にとらよとしてしている。岡山大学教養部の「女性論・男性論」の講義の内容がもとになっている。

女性を活用できない会社は未来はない！

角直紀、銅伝由香/著 講談社 2008年3月 1500円
今、流行のように言われている「女性活用」「ダイバーシティ」「ワークライフバランス」。しかし流行だけで実態のないものに終らせてしまっはもったいない。会社にも女性たちにも危機を乗り切ってもらうためのガイドブック。

「共育」宣言 地域活性化、ベンチャーから子育てまで

高知工科大学大学院起業家コース/著 創刊・ユニ・ディー/発行 丸善/発売 2008年3月 1575円

高知工科大学に設置された大学院起業家コースで学び、卒業した社会人学生や教員が、自分たちで生み出した事業の事例を紹介。「共に学び、育っていく」にはどうしたらいいのか。地域ブランド作り、アートのビジネス化などを題材に考えている。



Q&Aパートタイム労働者の雇用と実務 平成20年施行

清田雷士夫/編著 ぎょうせい 2008年3月 2800円

平成20年4月から施行された「改正パートタイム労働法」を実務に役立つように解説している。保険・税務についてもQ&A方式でわかりやすい。巻末には資料付。

〔女性史・歴史〕

女と男と子どもの近代 世界史リブレット

長谷川まゆ帆/著 山川出版社 2007年12月 765円



歴史叙述における女と子どももの不在という偏りが、近年の研究により徐々にうめられてきている。本書はルネサンスからフランス革命までのフランスにおける、女と子どもと男の関係の歴史をたどっている。

大英帝国の女教師 イギリス女子教育と植民地

堀内真由美/著 白澤社/発行 現代書館/発売 2008年3月 2310円

19世紀後半、イギリスでは女性に教育をというフェミニズムの動きを背景に女教師が誕生し、女子教育という領域を切り開いた。彼女たちは、大英帝国の植民地拡張の時流に乗って、海外にも出かけていく。彼女たちの活躍を追いかけて、その夢や挫折、限界にも言及したのが本書。



〔 家庭・家族・衣食住 〕

「家庭教育」の隘路 子育てに強迫される母親たち

本田由紀/著 勁草書房 2008年2月 2100円



「親がダメだから子どももダメになる」という言説があふれている昨今。「自己責任」言説は「家庭責任」言説へと流れ込む。しかし、本当に求められるべきは何なのか。データを集めて考察してみると、「これ以上追いこんでくれるな」という母親たちの悲鳴が聞こえてくるといふ。

シングルマザーのあなたに 暮らしを切り切り53の方法



NPO法人しんぐるまざーふぉーらむ/編著 現代書館 2008年4月 1470円

シングルマザーの先輩から、後輩のシングルマザー or シングルマザーになるかもしれない方々に。離婚やシングルマザーライフについての情報を伝授。大丈夫、やってみよう。勇気がわいてくる本。

いい妻、リセット宣言 定年夫のストレスから解放される、魔法の法則教えます

百世瑛衣乎/著 共同通信社

2007年12月 1260円

夫が定年になったなら、「妻」もリセットして、人生のゴールデンエイジを楽しみましょう。ライフプランシートや実践テクニク満載です。



「キャリモテ」の時代

白河桃子/著 日本経済新聞社

2008年2月 1260円

結婚活動を略して「婚活（コンカツ）」というらしい（山田昌弘氏提案）。ちゃんと働いてモテる、そして結婚するための実践テキスト。本文下段には「女用語の基礎知識」あり。「結婚退職」が解説されていて、時の流れを感じました。



親に暴力をふるう子どもたちの心がわかる本

山中康裕/著 講談社 2008年2月 1365円

「家庭内暴力」とひとこと言うが、「よい子」だったわが子から暴力をふるわれた親は、とにかくあわてるだろう。しかし、じっくり考えると「暴力をふるわざるをえない」状況も理解できるようになるはず。長期化させずに、親子関係を暖かいものにするためには、まず、「子どもの心」をわからなければ。



「夫婦の危機」からの脱出 わが子を亡くした夫婦たちの物語

ジュディ・C・ピアソン/著 小林眞佐男/監修

北星堂 2008年1月 2310円

「わが子を亡くす」ほどの喪失が、他にあるだろう。本書は米国のコミュニケーション学者が、子どもを亡くした夫婦にインタビューし、「物語」として、その心情や危機の乗り越え方を綴っている。人生の危機をのりこえるための普遍的な書として、読むことができる。



女性の就業と家族のゆくえ 格差社会のなかの変容

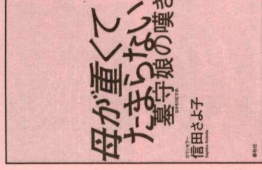
岩間曉子/著 東京大学出版会 2008年3月 3990円



どのような女性が働いていて、女性就業することによって、家族の姿はどう変わるのか、についてを、「社会階層とジェンダー」に注目して分析している。格差が拡大する中で、女性の就業の重要性は高まっているの、それによって階層分化もおこっている状況を整理。「男性稼ぎ」モデルからの転換の方法を展望する。

母が重くてたまらない 墓守娘の嘆き

信田さよ子/著 春秋社 2008年4月 1785円



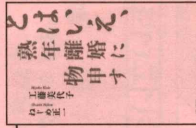
受験、就職、結婚、出産、介護……どこまでついでてきて介入する母がいる。父親は、常に傍観者である。こんな母娘関係は、めずらしくもなんでもないらしい。どうしたら、母親から逃げるのできるのか。

とはいえ、熟年離婚に物申す

工藤美代子、ねじめ正一/著

メディアパル 2008年3月 1470円

「熟年離婚をする前に、何か出来ることはないのだろうか」という思いで書かれた本。熟年真只中のノンフィクション作家と詩人による対談。セックスや老いの問題など、熟年離婚に直面したとき迫ってくる問題を語っている。

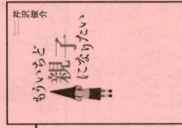


もういちど親子になりたい

芹津俊介/著 主婦の友社

2008年3月 1470円

「親が子どもに求めること」と「子どもが親に願っていること」の間にずいぶん開きがあるようだ。それをトラブルとしないためには「もういちど親子になる」ことが必要だと著者。



夫婦でいるのやめますか？ 「最後の答え」を出す前に…

岡野あつこ/著 実業之日本社 2008年4月 1470円

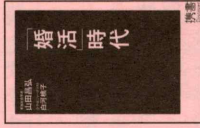
夫婦の危機の見つけ方、離婚しなくてもよい方法を伝授。離婚するにしろ、しないにしろ、「あの手、この手をつくして」というのが著者のいいたいことみたい。

「婚活」時代

山田昌弘、白河桃子/著 株式会社カヴァー・トゥエンティワン

2008年3月 1050円

「婚活」とは「結婚活動」の略という。「よりよい結婚を目指して、合コンや見合い、自分磨きなど、積極的に行動する」活動のことをいう。「婚活」しないと、結婚がしにくくなっている時代に入ったというのが著者たちの言説。昔の「花嫁修業」と違う、今の「婚活」は、男も女も就職活動のごとく「すべき」もので、少子化対策にも役立つそう。



〔子育て・教育〕

これでいいのか保育園 お父さん奮戦記

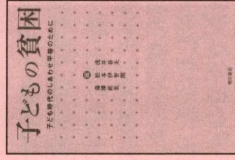
池田泰/著 河出書房新社 2008年3月 1575円



娘が生まれ「男から父親へ」なった著者。保育園をめぐって、いろいろ体験し、最後は、市の公立保育園改革評価委員会の委員として活動する。著者と保育園とのかわりをつづけたのが本書。個人的な事情で子どもを預けるわけであるが、それを国レベルで考えると、決して「個人的な出来事」ではすまされなくなるといふ。

子どもの貧困 子ども時代のしあわせ平等のために

浅井春夫、松本伊智朗、湯澤直美/著 明石書店 2008年4月 2415円



子どもたちにとつての貧困とは、人生のスタートラインに立つ段階でのチャンスの不平等の問題であり、子ども期にふさわしい生活、教育環境の侵害、やる気が奪われている問題でもある。現代社会で進行する「子どもの貧困」問題には、社会の課題としてしっかりと向き合わなければならない。

やさしいお母さんになれる子育てヒント

樋口邦彦/著 雲母書房 2008年1月 1680円

スミミングクラブ経営者が語る、遊びをキーワードにした子育て論。

ちいさい・おおきい・よわい・つよい No.62

毛利子来、山田真/責任編集 (株)ジャパンマニニスト 2008年2月 1260円

特集:どうなの? “子育てパパ”ブームって



よみがえれ少年院の少女たち 青葉女子学園の表現教育24年

中森孜郎、名執雅子/編著 かもがわ出版 2008年3月 2310円

仙台市にある女子少年院、青葉女子学園では、毎年春に創作オペレッタが演じられるという。それは非行に走った少女たちが、心の傷をいやし、自分と向き合おうとたななおっていくのに、大変、有意義なようだ。人事院総裁賞を受けたこの表現教育の実践を、いねいに追っている。

服部幸應の食育の本Vol.2

服部幸應/監修 株式会社グリーンハンド/発行
株式会社ローカス/発売 2008年3月 1365円
「食育」とは「人」を「良」く「育」てることだというのが、著者の考え。ムック版で、写真、イラストを入れてカラフルに呈示。2005年に「食育基本法」が施行されている。

子どもたちは変わったか

小谷敏/著 世界思想社 2008年3月 2310円
日本では高度経済成長期に、それ以前は担っていた家業や家事の中で役割を担う必要のない「専業主婦」が出現したという。それを境に「子どもたちは変わった!」というのが本書の主張。「子ども誕生」はいかにしておこったか、「専業主婦も第一世代」の様相は何か、ポスト高度成長期には「子ども」はどう変容したか。

パパ!、はじめよう! 子どもで人生を変えた男たち

歌代幸子/著 (株)オレンジページ 2008年3月 1575円
「子育てで生き方を変えた男たち」の物語。子育てを楽しむ父親

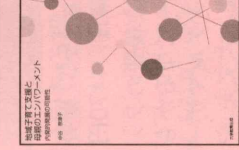
産める国フランスの子育て事情 出生率はなぜ高いのか

牧陽子/著 明石書店 2008年2月 1680円



1990年代後半から回復を続け、ヨーロッパではトップ水準の1.98になったフランスの出生率。手厚い家族支援だけが理由ではないと著者は言う。現地で、出産・子育てを経験した著者がみた「本場の理由」は、「家族に優しい」社会、男の価値観にあるようだ。

地域子育て支援と母親のエンパワメント 内発的発展の可能性



中谷奈津子/著 大学教育出版 2008年1月 2625円

母親一人ですべてを背負う子育ては、母親自身を追い詰めていく。これを解消するためには、「育児に困難を抱える母親」を外部から支援していく方法、母親自身の内部から湧き上がってくるものを力にして、子育てで支援や地域コミュニティづくりに活かしていく方法がよいと著者は主張する。

たちの出現は確かに「頼もしい」。父親の育児参加というけれど、意識が変わるほど「参加」する男たちはどのくらいいるのだろうか。

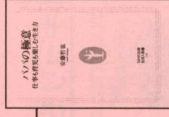
子育てをめぐる社会政策 その機能と逆機能

社会政策学会/編 法律文化社 2008年3月 3150円
社会政策学会第114回大会報告が中心となっている。白波瀬佐和子、阿部彩、本田由紀等の論文。

パパの極意 仕事も育児も楽しむ生き方

安藤哲也/著 NHK出版 2008年3月 735円

著者は、男性の子育てを支持するNPO法人の代表。「パパ検」の仕掛け人。仕事も育児も地域活動もあきらめない生き方を提唱。



男の育児女の子 家族社会学からのアプローチ

大和礼子、斧出節子、木脇奈智子/編 昭和堂 2008年4月 1995円

2回実施した「育児質問」には、「いまどき」の育児の諸相がよく表れている。「育児は母親」の実態はまだ大きいのが、この20年間、親の意識は変わり、父親の子どもへのかわわり方、母親の意識志向などに変化があるようだ。

産科医が消える前に 現役医師が描く危機回避のシナリオ

森田豊/著 朝日新聞出版 2008年4月 1260円

逮捕者まで出る「産科医受難」時代。その数は減り続け、産科の維持がでない病院もあらわれ、医師もお産もますます疲弊する。どうしたらいい? 現役の産科医で医療コメンテーターでもある著者が提言。



京都子連れパワーアップ情報10号 子連れでお出かけ

NPO法人おふいすパワーアップ/編
(特)子育て支援コミュニティおふいすパワーアップ 2008年3月 1050円
特集1:子連れでお出かけ 特集2:小学校は今など



【こころ・癒し】

セックスがこわい 精神科で語られる愛と性の話



香山リカ/著
筑摩書房 2008年3月 1365円
精神科にやってくる人々の悩みをきいていくと、仕事や家族の問題よりも、性や愛の問題が核心である場合が多いという。

アサーティブトレーニングBOOK I'm OK, You're OKな人間関係のために



小柳しげ子、与語淑子、宮本恵/著
小澤亜美/イラスト
新水社 2008年4月 1890円
人間関係の能力を培うためのトレーニングブック。アサーティブ（自己表現）トレーニングを通じて、適切に自分を表現する方法を学ぼう。イラストを多用した大判でワークも付き、読み易い。

アディクションと家族 Vol.24 No.4

家族機能研究所/編

ヘルスワーク協会 2008年2月 1680円

特集は「改正児童虐待防止法施行に向けて」。「児童虐待防止法の改正と今後の課題について」(岩城正光/他3編と座談会「児童虐待防止法をめぐって」(坪井節子/平川和子/斎藤学)など



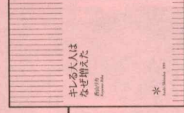
「ほめ言葉」ブック いいことがいっぱい起きる！

平木典子+アサーション研究グループ/著 大和出版
2008年2月 1260円

ほめ言葉は人生を豊かにする特効薬！なのに意外に私たちはほめ言葉をうまく使えないし、受けとめられないかも…。「ほめ」を使って、人生に「いいこと」を起こしていこう。

キレル大人はなぜ増えた

香山リカ/著 朝日新書 2008年1月 735円
日本人は、どうしてこうもキレやすくなったのか。

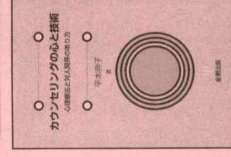


ジェンダーの心理学ハンドブック



青野篤子、赤澤淳子、松並知子/編
ナカニシヤ出版 2008年4月 3940円
ここ10年程の間に発表されたジェンダー・フェミニスト心理学の研究について、柱をたててまとめている。「ハンドブック」というタイトルが示すように、手元において折にふれ参照できる本。ハードカバーの350ページでタイソウにみえるが、記述は平易。

カウンセリングの心と技術 心理療法と対人関係のあり方



平木典子/著 金剛出版
2008年2月 3675円
虐待、DV、ひきこもりetc.と、「家族の病理」とされるものは多いし大きい。長年、総合的心理療法にかかわってきた著者が強調するのは「心理と福祉の連携」。待たれていた新著が、刊行された。

認知症と回想法

黒川由紀子/著 金剛出版 2008年3月 3150円
高齢者とその家族に対する心理ケアの必要性が増している。そのニーズに応え、ケアの質を高めるための心理職による専門的ケアについて書かれたのが本書。高齢者に対する心理的ケアは介護保険下にシステム的に位置づけられておらず、課題が多いという。

女性のうつ病 新版 つらい症状を癒し、楽にする最新治療法

野田順子/著 主婦の友社
2008年5月 1470円
うつ病とはどんな病気、どのように診断され、どうしたら治療できるか・・・など、基本を伝授している。



これから生きる心理学 「出会い」と「わかわり」のワークブック

川瀬正裕、松本真理子、丹治光治/著
ナカニシヤ出版 2008年4月 1890円
本書は、自分を見えることで、これからの人生を自分らしく生きるためのワークブック。基礎知識、ワーク、ふりかえり、人生設計などなど。じっくりやってみてみたいワークがたくさん。

【セクシュアリティ】

少女たちの性はなぜ空虚になったか？

高崎真規子/著 NHK生活人新書2008年1月 735円

前作『少女たちはなぜHを急ぐのか』の続編。性の低年齢化、性感染症の蔓延、望まない妊娠など決して明るくない少女たちの性の現状。だがここに至ったのは大人たちの問題でもある。セックス、結婚をめぐる歴史をたどる。



わたしの性的指向

青井空/著 2008年3月 1365円

「性的指向」をつづった散文詩集。



季刊セクシュアリティ No.35/No.36

人間と性教育研究協議会/編 エイデル研究所 2008年4月
No.35 1800円/No.36 1500円



増刊号には、性教育実践事例がずらり。巻頭の総論は「子どもを大切に構想/性教育からのアプローチ」(田代美代子)



特集は「恋愛・れんあい」。歴史、コミックス、TG、デートDVなど、若者たちとよりまく恋愛事情について。

〔からだ〕

10年女性健康手帳 2008年4月～2018年3月



松本清一/監修 飯田美代子・宮里和子/共著
博文館新社 2008年2月 1323円
10年間使える、女性用健康手帳。女性外来
データ、基礎体温記入欄、乳がんチェック表
などもついて、今年も刊行。

セックス・ブック 十代からの心と体の辞典



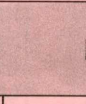
ジェーン・パヴァネル/著 富永星/訳
河出書房新社 2008年3月 1890円
安全なセックス、HIV、性感染症など、性
にかかわる190項目が、アイウエオ順に並べ
られている。「コンドーム」を例にとると、総
論的解説の次に、男性用コンドームについて
の使い方、良い点、悪い点の記述、手に入れ
る方法、Q&Aが記述され、その後、女性用コンドームの記
述も。「男の子はなぜ、コンドームを持っている女の子はやり
たがっていると思うのか」の答えは、95ページに。

女性のがん 名医の言葉で病気を治す



山田拓郎・福富隆志/編著
誠文堂新光社 2008年2月 1890円
「女性のがん」について正しい知識を得て、自分のか
らだを自分で守っていこう。

そろそろ産まなきゃ 出産タイムリミット直前調査



三浦天紗子/著 阪急コミュニケーションズ
2008年4月 1470円

子どもをもたない女性がぼんやりと悩んでいる「い

ジャズに生きた女たち



中川ヨウ/著 平凡社 2008年1月 798円
ジャズに生きた女性たちは「二重のマイノ
リティ」だと言う。アフリカン・アメリカンで
あること、もう一つは女性であること。9人の
女性たちのジャズ人生を描き、時代とともに
変わっていくミュージシャンとしての女性役
割の変化をとらえている。

愛するとき奇跡は創られる 在日三代史

宋富子(ソンプジヤ)/著 三一書房 2007年6月 1995円
日本と朝鮮半島の交流の歴史を展示する高麗博物館開設の中心
メンバーで、現館長である著者の半生の記。高麗博物館は多くの日
本人&在日ポランテニアに支えられた日本で初めての歴史博物館。
東京新宿にある。

ライサという名の妻

高橋たか子/著 女子パウロ会 2008年2月 2310円
フランスの、ほぼ20世紀全体を生きた哲学者ジャック・マリタン
と妻ライサという相思相愛の夫婦の物語。

神田紅 女の独り立ち

神田紅/著 産経新聞出版 2008年1月 1575円

あなたらしい不妊治療のために カウンセ
ラーと経験者からのメッセージ

森明子・浜崎京子、まさのあつこ/編
保健同人社 2007年12月 1575円
医学的な不妊治療の本というより、「不
妊という経験」を解き明かした本。「生活や
人生の一部としての不妊」という視点から、
不妊治療に際しての女性の体験や選択、今
日的な問題点が記されている。

悲しいセックス エイズで逝ったマヤに捧げる



赤枝恒雄/著 幻冬社
2007年11月 1050円
著者は夜の六本木で援助交際をしてい
る少女たちのための街角相談室を開いてい
る人。援交、中絶、エイズ、親との確執、心の
闇…。少女たちの壮絶な性的実態が書か
れている。「知らない」ことの代償は余りに
大きすぎると、警告。

つかは欲しい…!という感情、本当のところはどうなんですか?あ
るのかないのかわからないタイムリミットに追いつたてられて迷っ
ているなら、ここから問題と向きあってみたら、と著者。「産んでも
よし、産まないでもまたよし!」といえるような人生であったらいい
のかもしれない。

プレ更年期からの女性ホルモン塾

対馬ルリ子、吉川千明/著 小学館 2008年4月 1470円

子宮内膜症 専門のお医者さんが語るQ&A

杉並洋/著 保健同人社 2008年4月 1418円

〔自伝・評伝〕

現代世界の女性リーダーたち 世界を駆け抜けた11人



石井賢太郎/編著
ミネルヴァ書房 2008年5月 3360円
20世紀を中心に活躍した、又は活躍して
いる女性リーダーたちについて論じている。
マーガレット・サッチャー、インディラ・ガン
ダイ、コラソン・アキノ、アウンサンスーチー
など。日本からは緒方貞子。

講談師としての芸道30年の神田紅が、その軌跡を書いている。こ
れからも走り続ける、と。

大統領への道 ヒラリー・ロダム・クリントンの野望

ジェフ・ガース、ドン・ヴァン・ナッタ・ジュニア/著
成毛眞/訳 バジリコ株 2008年2月 2100円
アメリカ大統領民主党候補者選定の最終段階を迎え
るヒラリー・クリントンの実像にビューリッツァー賞記者が迫って
いる。ヒラリー・クリントンの多様な側面が呈示される。

断髪のもダンガール 42人の大正快女伝

森まゆみ/著 文藝春秋 2008年4月 1800円
大正に生きた自由でユニークな女性たちの姿を描
いている。本書は月刊「本の話」に連載されたものを加
筆してまとめたもの。巻末に年表、読書案内付。



〔セクハラ・暴力〕

Q&A児童虐待防止ハンドブック



児童虐待問題研究会/編著

ぎょうせい 2008年1月 1600円

DV被害者である母親が子どもを虐待しているという悲しい事例が少なくないことは、残念ながら現実。DVも児童虐待も、家族の問題としてとらえ、親と子、双方の支援を考える必要がある。

女性とパワーハラスメント なぜ起きる、どう対処する

NPO法人ウィメンズ・サポート・オフィス連/編

フェミックス 2008年3月 1260円



第1章：パワーハラスメントとは何か？なぜ起きる、どう対処する（金子雅臣）
第2章：パワーハラスメントと女性、セクハラとパワーハラの関係（中野麻美） 第3章：身近な人がパワーハラにあったら？どんな援助ができるかを考える（高山直子）
第4章：ジェンダーの視点から「女性が働くこと」を考える（加藤千恵）

虐待と現代の人間関係 虐待に共通する現実とは

上里一郎/監修 橋本和明/編

ゆまに書房 2007年12月 3675円

さまざまな虐待を包括的にとらえ、現代の人間関係を引き彫りにしている。児童虐待、高齢者虐待、配偶者虐待、家庭内、施設内虐待など、各々の専門家が分析や考察をしている。共通する人間関係を考え、問題解決の一助に。

アジアの花たちへ「慰安婦」問題と格闘した国会議員の記録

吉川春子/著 かもがわ出版 2008年3月 1785円

24年間の参議院議員としての活動の中で、従軍「慰安婦」問題を取り上げた著者の、闘いの記録。書名の「アジアの花」の意味は「女性の人権の発展にとつて、あなたの生涯は無駄ではなかった」という意味。問題はまだ、解決されていない。

性虐待をふせぐ 子どもを守る術(すべ)

石川瞭子/編著 誠信書房 2008年2月 2310円

子どもの性虐待、性犯罪の援助者に向けて、現場に必要な情報と技術を説明している。「子どもを守る」ことが、こんなに大変なことなのかとも思うが、注視すればかなりの部分を防ぐことができる、ということも知ることができる。職業的な援助者以外の方もどうぞ。

詳解DV防止法 2008年版

南野知恵子、千葉景子、山本香苗、吉川春子、福島みずほ、監修

ぎょうせい 2008年1月 3900円

監修者はすべて、DV防止法の成立、改正にかかわった国会議員たち。本書は超党派の女性議員の協力でできたこの法律の成立経緯と、逐条解釈、解説で構成されている。

子ども支援の相談・救済 子どもが安心して相談できる仕組と活動

荒牧重人、吉永省三、吉田恒雄、半田勝久/編

日本評論社 2008年3月 2415円



加害者は変わるか？ DVと虐待をみつめながら

信田さよ子/著 筑摩書房 2008年3月 1575円



「加害者」がクローズアップされている。そして、DVや虐待の実態を知れば知ることが、加害と被害の境目に一線を引くことが難しくなる。加害者を極悪非道と断ずるだけでなく、その実像にできるだけ迫ることが重要だと、長年、DV・虐待にかかわってきた著者はいう。

性犯罪被害にあうということ



小林美佳/著 朝日新聞出版

2008年4月 1260円

24才の夏、男二人にレイプされた著者。実名を公表し、経験を語ってきた。自分では当然な選択だと思ったが、大きな反響をよんだ。著者が願ったひとつのことは「理解」。制度でも警察でも支援団体でも復讐でもないという。

「子どもも支援」といいながら「子育てで支援」に終始していないか、と著者。「子どもも支援」は、子どもの自己肯定感を向上させることが基本であるという。「子どもも支援」の多彩な展開、先進的自治体の取り組みをレポート。

性犯罪被害者対応ハンドブック(再訂版) 性犯罪被害の発生・届出—そのための—

性犯罪捜査研究会/編著 立花書房 2008年3月 1100円

性犯罪捜査に専門的に従事する警察官のために書かれた、性犯罪捜査のハンドブック。実務の参考にするために書かれた。

児童虐待を認めない親への対応 リゾリューションズ・アプローチによる家族の再統合

アンドリュ・ターネル、スー・エセックス/著

井上薫、井上直美/監訳 板倉賛事/訳

明石書店 2008年4月 3465円

児童虐待が認められるケースで、親が虐待したことを否認したまま家族が再統合することを求めることはよくあるそうだ。この場合、親と専門家が言い争いを続けるかわりに、共働いていくことが求められる。本書は、そうした場合に有効な「リゾリューション・アプローチ」を紹介したもの。

セクハラ犯濫時代 サバイバルBOOK

番敦子/著 辰巳出版 2008年2月 1260円

「セクハラにとっても厳しい時代」になったというのが著者の認識。あらぬ疑いをかけられないようにするためのマニュアルを呈示した本です。

暴力の発生と連鎖 心の危機と臨床の知11

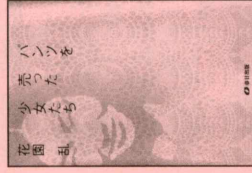
上村くにこ/編 人文書院 2008年2月 2625円

著者曰く、怒り、残虐、不安、恐怖、優しさ、創造力、活力等がいままでの複雑なエネルギーが「暴力」であるから、悪として、なんとしても消去しなければ、という対応ではその本質をつかめないようだ。そして暴力は、ひろがり、時間をこえて連鎖する。



〔文学・エッセイ・芸術〕

パンツを売った少女たち



花園乱/著 春日出版
2008年2月 1680円

1980年代から90年代に「話題」になった「ブルセラ女子高生」。今や「だいの大人」になっていく。彼女たちの30代は、どうなのか？他の30代の女性とは違うのか？20年前「援助交際」を取材していた著者が、彼女たちの「その後」を追っている。

本の本

斎藤美奈子/著 筑摩書房 2008年3月 2940円



今、油が乗りきっている文芸評論家、斎藤美奈子の書評集。1994年から2007年までの書評がピックアップして並べられているが、その数、質、両方の重厚さに改めて感じ入る。書評の社会的使命は、「売れた売れない」という『経済の原理』とは異なる立場からの価値判断を示す「こと」にあるという。「量」を示す「売れ部数」より、「質」をはかる「書評」の方が重要なのだ！

不妊 赤ちゃんがほしい

家田壮子/著 幻冬舎 2007年12月 600円

26の「生きざま！」

吉永みち子/著 日本経済新聞社出版 2008年1月 800円

四十でがんになってから

岸本葉子/著 文春文庫 2008年1月 580円

40歳でがんの告知を受けた。がんについての本を読んでも、こうすればこうなるとは判らない。不安がいっぱいの中、仕事や生活、考え方や生き方を見つめ直す著者。ドラマにもなった人のエッセイ。

娼婦学ノート 戦後物語られた遊女たちの真相

伊藤裕作/著 データハウス
2008年3月 1785円



娼婦を描いた名作を、敗戦直後の『肉体の門』から、女性の書いた『石蔵オペラ』まで35篇紹介。日本の娼婦の実像が浮かび上がる。著者は風俗ライター・歴30年。現在修士課程で「娼婦小説」を研究しているという。

親の品格

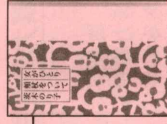
坂東眞理子/著 PHP新書 2008年1月 756円

ベストセラーとなった『女の品格』の続編。昔も今も必要なマナーや、親が教えるべきことを66項目をあげて述べている。マッtownな親をめざすひとのために。

女がひとり頼杖をついて

茨木のり子/著 童話屋 2008年1月 1312円

茨木のり子の詩集から選ばれた26編を編集し上梓。何回読んでもいい！！



凜とした「女性の基礎力」

坂東眞理子/著 暮しの手帖 2008年2月 945円

自分の目で判断し、行動する「見識」をもつことが「女性の基礎力」

女性映画がおもしろい 2008年版 シネマライブラリー vol.6

小藤田千栄子、林冬子、松本侑壬子、吉田真由美、大竹洋子/著
パド・ウィメンズ・オフィス 2008年3月 1260円



いつも楽しみにしている「月刊女性情報」の連載が2008年版として発行された。まとめで読むと、女性映画の現在がよくわかります。PART I 女性映画 2007年ベスト5 PART II 女性監督・外国映画 PART III 女性監督・日本映画 PART IV 話題の男性監督作品

女が女を演じる 文学・欲望・消費



小平麻衣子/著 新曜社
2008年2月 3780円

明治から大正期、近代小説の市場が自立し、展開しはじめた頃、「新しい女たち」はどのように社会に承認され、あるいは利用されたのか。幾多の文学や、演劇、ファッションなどを考察し、その時代のジェンダー規範の成立過程を論じている。

だという。「働き方の国際比較」や「女性と男性の未来」など、女性に目だが、男性に読ませたい。

猛女とよばれた淑女 祖母・齋藤輝子の生き方

斎藤由香/著 新潮社 2008年2月 1470円

主人公は、齋藤茂吉の妻で北杜夫の母にあたる人。夫や息子と同じく破天荒な人だったようだ。こよなく愛されたエッセイストの孫娘が、祖母の気高い生涯を追っている。セレブな家に生まれた人なわけだけれど、その「強さ」はすごいと、素直に思う。

科学映画と私 ある女流映画監督の回想

中村麟子/著 文芸社 2008年2月 1470円



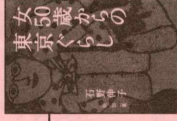
著者は現在90歳。長年、科学映画の製作に携わり、科学放送受賞選考委員も務めた人。今までの自分の人生をふり返り、科学映画監督として生きてきた軌跡をつづっている。90歳の今、「いつか介護される時がくるかもしれないが、その時は介護される側の心理に焦点をあてた映画をつくってみたい」というのであるから、すごい。

女50歳からの東京ぐらし

石野伸子/著 佃二葉/絵

産経新聞出版 2008年2月 1680円

転勤による突然の東京ぐらし。50代女性が、一人で実際に暮らして感じた、大都会東京の姿。



恋する物語のホモセクシュアリティ 宮廷社会と権力

木村朗子/著 青土社 2008年4月 2310円



平安時代の宮廷社会において極めて重要な「権力奪取」の手段であり政治的事柄であった「性」。しかし、宮廷物語には多くのホモセクシュアル関係も描かれている。権力とホモセクシュアルの「共存」をみて、著者は宮廷社会には現代の異性愛主義とは異なる「性制度」が存在することを明らかにする。そのあり様は、国民国家のもとで行われ、現代も行われつつあることへのオルタナティブを呈示する可能性があるというのが、著者のいいたいこと。

女ともだち 生まれるとき、育つとき、壊れるとき

岸本裕紀子/著 アスペクト

2008年4月 1365円

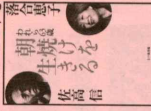
女の友情についてのエッセイ集。「女ともだちの物語」



われら63歳、朝焼けを生きる

落合恵子、佐高信/著 七つ森書館 2008年4月 1680円

ともに1945年生まれの二人。13年前、『50歳、われらの戦後』(岩波書店)というブックレットを出している。それから13年たった今の時代についての二人の認識は「戦後から戦前に入っているのではないか」。しかし、諦めず、「問いかね続ける」という。



〔高齢・福祉〕

マザー・ミレット



ケイト・ミレット/著 永田美喜子/監訳 新水社 2008年1月 2415円

『性の政治学』の著者が、老いて脳腫瘍を患った母親の介護を語る。ナーシングホームから母親を奪還し専断を保てる介護に奮闘する中での、家族や親戚や当の母との軋轢を振り返る。アメリカのフェミニズムをリードした著者の真情あふれるエッセイ。

母に歌う子守唄 その後 わたしの介護日誌

落合恵子/著 朝日新聞社 2008年2月 1470円

前作「母に歌う子守唄」の「その後」。7年間の介護生活の1コマ1コマが、丁寧に鮮やかに書かれている。本をまとめるにあたって、「介護『福祉』」について伝えきれなかったことを、あとがきにかえて収録。介護にかかわる全ての人(する人、される人)に向けて。



病みながら老いる時代を生きる 岩波ブックレットNo.717

吉武輝子/著 岩波書店 2008年1月 504円

毎年2冊の本を書くという著者は、膠原病などの重篤な病をおして講演もこなしてきた。昨年は大腸がんの手術をうけた。でも彼女は、「病気はするけど、病人にはならない」「病気と寿命は別もの」。大腸がんの経験の一部始終が書かれているが、その生きざまに感動する。



私の古い構え 元気に老いる女の十六章

樋口恵子/著 文化出版局 2008年3月 1365円

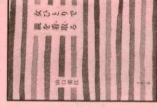
約20年前に出版された本書がデータを修正・加筆され復刊された。20年たっても、社会へむけた著者のメッセージの鮮度は変わらない。人生百年時代の初代として、若いへの向き合い方と知恵を教えてくれる。



女ひとりで親を看取る

山口美江/著 ブックマン社 2008年1月 1470円

母親が亡くなってから、ずっと二人で暮らしてきた父と娘。その父がアルツハイマーになった。「パパの心が壊れていく」日々をひとりで看取った著者の重く、愛おしい日々の記録。



まんがで学ぶはじめての認知症ケア

高瀬直子/作 永田久美子/監修 小学館 2008年3月 1050円

まんがで描く、認知症のあれこれ。「もの忘れ」との違いや体、心のケア方法など。

素敵にシニアライフ 老いに向かって生きるふたり

村瀬敦子、村瀬幸浩/著 大月書店

2008年1月 1575円

『素敵にコミュニケーション』を出したのが、1989年だという。カウセンセリングと性教育の分野で活躍してきた妻と夫が、再び共著を出版。二人とも60代になり、熟年期とともに生きようとしている。



はじめての介護 家族が倒れた。さあ、どうする

主婦の友社/編 主婦の友社

2008年3月 1260円

写真、イラスト入りで、「基本のき」を紹介。

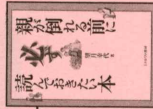


グループホームの基礎知識 改訂新版

山井和則/監修 上田理人/著

リヨン社 2008年4月 2500円

「認知症介護の切り札」とされるグループホームについての情報を掲載。資料も豊富。



親が倒れる前に必ず読んでおきたい本

望月幸代/著 ミネルヴァ書房 2008年5月 1680円

働きざかりの40～50代にとって、高齢期を迎えた親のことは気がかり……だけけど日々の忙しさを理由に考えないようにしている人もいるのでは? そんな方は、転ぶまえに頼りになる「情報」を!

ゼロから学ぶ「介護保険」と「介護生活」 図解まんが付き

伊藤周平、岡田稔子、東村直美/著

農山漁村文化協会 2008年3月 1500円

身内が倒れたら、まったなしではじまる介護生活。そのためのノウハウや情報をまとめている。巻末資料には介護サービスを受けるときの利用負担費用の目安付



新・共感のマネジメント ポランティア・テキストシリーズ21

松本修一/著 (社)大阪ポランティア協会

2008年3月 1155円

市民活動のリーダーやスタッフが、必要な組織マネジメントのポイントを解説。

90歳。一人暮らしをたのしんで生きる

吉沢久子/著 海竜社 2008年4月 1575円

90歳になった日々のくらしを、ありのままに書いたエッセイ集。

高齢期の住まいⅡ 年金くらしの視点から

(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部「高齢社会を考える会」/編
(社)日本消費生活アドバイザー・コンサルタント協会西日本支部「高齢社会を考える会」

2008年4月 500円

高齢期を年金で暮らすことを念頭に、高齢期の住まいを考えている。具体的な事例が豊富で、わかり易い。一度たちどまって、ゆくり考えてみたい。

〔平和・開発・エコロジー〕

DAYS JAPAN Vol.5 No.4 / No.5

広河隆一/責任編集 株式会社・ジャパン 2008年3月・4月 各820円



No.4 特集「戦争と人間と写真」。連載には「少女売買」も。



No.5 第4回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞が発表された。世界中でおこる、戦争、暴力の真にせまる状況が、身をていした写真によって伝えられている。

フェア・トレードを探しに

三浦史子/著 株式会社・エーネットワーク 2008年2月 1995円



フェア・トレードって何？
いつ始まり、どんな仕組みで動いているの？ そうした問題意識をもって、著者は、世界各地を訪問する。そこから見えてきたフェア・トレードの実際、運動の形をまとめたのが本書。

全身当事者主義 死んでたまるか戦略会議

雨宮処凛/著 春秋社 2008年2月 1785円

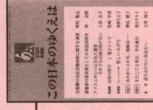
雨宮処凛と、月乃光司(心身障害者のパフォーマン・イバント企画)、高遠菜穂子(イラク・ホープ・ダイアリー)、森達也(TVディレクター)等との対談集。テーマは「自分たちは当事者」

テロと拝金主義で後退する世界の人権 ニュー インターナショナリスト ジャパン

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン編集部/編 インティリンクス/発行 汐文社/発売 2008年2月 630円

この日本のゆくえは あごら316号 新宿発

あごら新宿/編 BOC出版 2008年2月 1050円



インパクション No.162 G8サミット批判

インパクト出版会/編 インパクト出版会 2008年3月 1365円

特集は「G8サミット批判」。平和・環境などの視点からも考察。

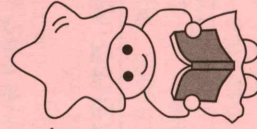
人と地球にやさしい旅へ 観光インパクトと地球温暖化を考える

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン編集部/編 インティリンクス/発行 汐文社/発売 2008年4月 630円

地震は貧困に襲いかかる 「阪神・淡路大震災」死者6437人の叫び

いのうえせつこ/著 花伝社/発行 共栄書房/発売 2008年1月 1785円

阪神・淡路大震災の死亡の割合は、一般の人よりも生活保護家庭の人たちが約5倍も多いのだそうだ。「格差社会における震災」の姿がうかがいあがってくる。



心をケアする絵本5 世界はどうなっちゃったの？ こわいニュースにおびえたとき



キャロル・シューマン/作
キャリー・ピロー/絵 上田勢子/訳
大月書店 2008年2月 1680円

衝撃的なニュースにふれると、子どもたちもおびえる。おびえる子どもへのケアは、現代社会では大切な課題。可愛い絵本で優しく子どもたちに語りかける絵本。

いのちの絆 エイズ・ベトナム・少女ちゃん

村山康文/著 アットワークス 2008年3月 1575円
ベトナムに何回も通い、エイズ、戦争、人権、差別を追いかけてきたフォトジャーナリストの報告。戦争の後遺症であるエイズの問題を写真と文で告発。

川辺の民主主義

ロシナンテ社/編 アットワークス 2008年4月 1575円
ダム建設をめぐる住民運動の現場の声、運動の担い手からの発信。

先住民 変りゆく政治と暮らし ニュー インターナショナリスト ジャパンNo.98

ニュー・インターナショナリスト・ジャパン編集部/編 インティリンクス/発行 汐文社/発売 2008年5月 630円
先住民とは、「領土、人民、自己決定に対する政治的意思」を持っていないが、なおかつ、「かつてそれらの権利を奪われ、その回復を求めているグループ」のこと。

アジェンダ 第20号 未来への課題

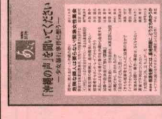
アジェンダ・プロジェクト/編
アジェンダ・プロジェクト/発行 星雲社/発売
2008年3月 500円



特集「少子化ニッポン」の子育て事情。杉本代栄・竹信三恵子・大森順子など。

「沖縄の声」を聞いてください 少女暴行事件に想う あごら317号

あごら沖縄/編 BOC出版 2008年3月 1050円
またしても繰り返された軍事基地の島での「暴行事件」。週刊誌やインターネットでセカンド・レイプが乱れ飛び、20日後に提訴はとり下げられた。怒りをこめた沖縄からの報告。



〔絵本・子ども〕

ウィメンズブックストアで扱っているミニコミ・研究誌・情報誌の新着情報です

＜単発もの＞

- 中学生の「性」に関する意識調査 性に関するよりよい学校教育のために
- 特定非営利活動法人SEAN/編集・発行 2008年3月 105円
- NPO法人SEANと高槻市教育委員会が協働で取り組んだ意識調査。調査結果を見やすくグラフ化。8ページにまとめられたコンパクトな冊子。



- ポルノ・買春問題研究会 論文・資料集 vol.7 ポルノ・
グラフィティと性行動

「ポルノグラフィと性行動に関する意識調査」の結果と報告 ほか。巻末資料には関連の新聞記事も掲載。



- ユニフェム2006/2007年次報告書 女性のエンパ
ワメントとジェンダー平等の実現に取り組む
ユニフェム日本国内委員会 監修 ユニフェム大阪
2008年4月 500円



＜シリーズ＞もの

- 「い☆る」第15号 特集：ケアワーカーの仕事と賃金を考える 315円
② 働く女性の権利センターい☆る編集局 2008年4月
- 「Volo(ヴォロ)」433号 特集：寄付が支える市民社会作りへ
社会福祉法人大阪ボランティア協会 2008年3月 400円
システム
- 「女のためのクリニクニュース」No.274 女性への暴力被害者支援の深化にむけて/275 前を歩く女からのメッセージ 田中美津さんのお話から No.1 / 276 田中美津さんのお話から No.2
ウィメンズセンター大阪 2008年2月・3月・4月 420円
- 「くらしと教育をつなぐWe」153号 特集：安心して暮らせる社会をつくる
フェミックス 07年12月・08年2月 800円
- 「Green Letter」VOL.49 40歳過ぎてから映像で自立 ぼか
大阪市のサポートセンター 2008年4月 525円
- 「里の家だより」N0.69 三木市の産科診療の行方は？ ぼか
里の家編集スタッフ 2008年5月 375円
- 「消費者情報」No.389 特集：ケータイ進行形/No.390 特集：マルチのからくり/No.391 特集：消費者行政レポリエーション
(財)関西消費者協会 2008年3月・4月・5月 500円
- 「シネマジャーナル」vol.73 2007年度読者とスタッフが選ぶ映画ベストテン ぼか
映画ベストテン 2008年4月 800円
- 「職場の権利」51号 「格差社会」から「均等社会」へ、「均等社会」は夢ではない ぼか
研究会「職場の権利」2008年3月 840円
- 「しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 NEWS」Vol.10 「児童扶養手当の受給に関する重要なお知らせ」について ぼか
活動報告 NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西 2008年3月 420円
- 「スポーツとジェンダー研究」VOL.6 ジェンダーを批判する視点(巻頭随想)ぼか 論文・研究ノートなど
日本スポーツとジェンダー学会 2008年3月 1575円
- 「世界女性会議 ネットニュース」No.68 大阪府知事候補の男女共同参画政策に関する公開質問状の回答/No.69 橋下府政に
対峙して、「好きやねんドーンセンターの会」を結成/No.70 ドー
ンセンターの機能存続と男女共同参画政策の推進を求めて ぼか
世界女性会議ネットワーク関西 2008年1月・3月・5月 630円
- 「それゆけ女たち」No.172 「北欧」はここまでやる。格差なき成長は可能!/?/173 第18回総会報告 ぼか
セクシャルハラスメントと斗争労働組合あぶが 2008年3月・4月 210円
- 「東京強姦救援センターニュース」No.66 米兵による強姦事件 ぼか
東京強姦救援センター 2008年4月 1050円

……

(三) 取扱希望の方は、お問い合わせください。

- ユニフェム2004/2005年次報告書 女性のエンパ
ワメントとジェンダー平等の実現に取り組み
ユニフェム日本国内委員会 監修 ユニフェム大阪
2008年4月 500円



- なにわの夜明け ドーンセンターと私たち 資料集
ターの存続をもとめて公開シンポジウム2008.4.18
ドーンセン

好きなやねんドーンセンターの会/編集・発行 2008年4月 1050円
2008年4月18日ドーンセンターにおいて開催された公開シンポジウムのために作成された資料集。ドーンセンターができるまでの歩み(当時の貴重な資料が沢山集められている)ドーンセンターの今とこれからなど。



- 駄フエ三屋。OUTSIDER FEMINISM!

日本女性学研究会メンバーを中心とする20名を超える有志たちによって編集された冊子。エッセイ、座談会など。いろいろな形のいろいろなフェミが盛りだくさん。



- 「はらっぱ」 No.282 子ども・保護者とともに、「保育共育」の希望を語ろう／283 特別支援教育、1年／284 共生共育のこれから
特別支援教育を超えて
社団法人子ども情報研究センター 2008年3月・4月・5月 735円
- 「パワーアップニュース」 VOL.56 昔の暮らしに意味を見出し、生きる力を引き出す 琵琶湖博物館 学芸員 中藤容子さんを訪ねて ほかに
パワーアップ・プランニング 2008年3月 315円
- 「ひとわりから」 第37号 世界中のグララウンド・ゼロ(連載) 丹波篠山のひとりにから ほかに
編集室ふたりから 2008年3月 1050円
- 「フアイト・バック」 Vol.73 北九州連続監禁殺人事件をDVの視点で考える ほかに
性暴力を許さない女の会 2008年4月 525円
- 「フィフティネット」 VOL25 再び議員を目指すあなたへホッペ座談会特集
NPO法人フィフティネット 2008年3月 525円
- 「フェミニストカウンセリングニュース」 No.62 長岡市での平川さん後援会頼末記 ほかに
日本フェミニストカウンセリング学会 2008年3月 315円
- 「VOICE OF WOMEN」 No.289 子育てドラマと大家族ものの／290 ゲイシャと観光～日本女性のステレオタイプ／291 4月例会報告「フェミを探索に行ってみた！」 ほかに
日本女性学研究会 2008年3月・4月・5月 158円
- 「マイマイ族」 vol.53 特集 家族の条件・女のこだわり
鈴木美和子 2008年5月 315円
- 「月刊むすぶ」 No.445 水の民主主義 内海ダム・山鳥阪ダム・水俣産廃／No.446 訴えます 民主主義と地方自治を守るために岩国市民はこれからはがんばる！／No.447 エコキュートが人間を破壊する！ ほかに
ロジナテ社 2008年2月・3月・4月 840円
- 「メンズネットワーク」 No.86 特集・男と卒業／No.87 特集・再び男のフェスティバル
メンズセンター 2008年3月 525円
- 「れ組通信」 No.244 心あたたまる時間／245 若草の会のこと／246 「今年の桜」 ほかに
れ組スタジオ・東京 2008年2月・3月・4月 525円
- 「女(わたし)のからだから」 No.264 連続講座第4回「私が考えるリプロラプビークスクラブでやってきたこと」北原みのりさん／No.265 「G8 女性の人權フォーラム」参加と賛同の呼びかけ
SOSHIREN・女(わたし)のからだから 2008年3月・4月 315円
- 「ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク ニュースレター」 No.51 ILOとイギリスの旅から学ぶ・全国連続シンポジウム ほかに
WWN(ワーキング・ウィメンズ・ネットワーク) 2008年4月 525円
- 「WAI 3(わいわいわい)」 24号 特集 僕たちの嫌いなフェミ
わい3編集部 発行人 味沢道明 2007年11月 420円

編集長の著者インタビュー

情報からの自立

結城美恵子著&「女性と情報」プロジェクト
ユック舎 2008年4月 2940円

「情報」を切り口に、現代を生きる女性のエンパワーメントを支えようと意図する、極めて今日的な本である。

多種、多様、多量な情報が昼夜を問わず繰り出され、渦巻く、今という時代。インターネットの登場で、私たちはもつとカシコク、自由な生き方ができるのではとの期待もあったはずなのだが、そうでもないようだ。どうしたらいい？

本書が説く「情報からの自立」は、その有力な答えのひとつである。「言うは易く、行うは難し」と感じるむきには、後

著者インタビュー 第29回

『情報からの自立』の著者 結城美恵子さんに聞く



——：「情報からの自立」という言葉は、他ではあまり聞きませんが、結城さんが初めて使われた言葉なのですか。

結城：そうですね。論文の中で、「情報からの自立が必要」みたいな言い方がされていることはあるかもしれませんが、定義づけ、理論づけをして、体系的にとらえてまとめたのは、この本が初めてだと思います。

——：この言葉に至った道筋にとっても興味があります。

結城：今から5年程前、ある女性センターから「自立の要件」について話すように依頼されたのです。そのとき、「経済的自立」「生活的自立」「社会的自立」はあるのに、「情報」についてはないな、と思ったのが具体的に考えるきっかけになりました。

どのような自立をめざすにしても、その基礎となるのが「情報」です。感わされず、振り回されず、自分に必要な情報を選択して、これを実行するチカラにしていくな…そういう「情報からの自立」がまづは必要なのではないかと、考えました。

——：「情報」といっても、今は情報が溢れ返って、その中でおぼれかねないような時代ですよね。

半についている「トレーニング編」
(DVD付)がお薦め。「なるほど、こ
うなの」と納得できることでは
う！

「女性情報」に関しても、実例をひ
きつつ、判りやすく呈示してある。

いくらか多様で多様でも、それを
「識別」し、「読み解く力」がなければ、
膨大なムダどころか、時に有害とな
るのが「情報」。「情報からの自立」は、今そして、これからと
いう時代をしっかりと生きようとする女性たちにとって、必
要不可欠な「心得」なのである。(M)



結城：インターネット時代になって、私たちの生活全体の
あらゆる場面に、「情報」が当たり前にかかわって
るようになりました。そのことを私は「情報の生活化」
とよんでいます。功罪両面を備えています。私は、
こういう時代だからこそ、溢れる情報に刷り込まれ
る思い込みを排して誤解や偏見を解き、自分にとっ
ての必要情報を選びとっていきける、いわば基本とな
る「底力」が必要だと考えます。

「情報からの自立」に役立つトレーニングを本書
とDVDに紹介しましたが、実際に取り組んだ人たちは、
本当に変わりますよ。自分はどうありたいかを
軸足にして情報を活用し、行動するようになります。
その結果からまた、新たな「情報」が生まれます。
この循環がつくれるのです。

——：その割には、各地の女性センターでの情報事業が
年々縮んでいくように感じるのですが。

結城：情報事業の運営にはお金がかかります。また、「情報」
という特性から事業の効果が見えにくい。財政難の
折、各女性センターがきちっと事業構築して地域に
還元し、それをアピールしていかない、なかなか
その存在価値が理解されない。人材の問題も大きい
です。図書の貸し出し、閲覧だけでなく、人々に「情
報からの自立」を促すコアとなる機能を充実させる
女性センターであってほしいですね。

(聞き手：森屋裕子)

結城美恵子さん

国立女性教育会館などを経て、現在 (有) インフォメー
ションプランニング代表取締役

HOT・FILE

会員の皆さんのページです。さまざまな情報交換や、プロジェクトの呼び掛けなどにご利用ください

変革期に生きる女たち ～次世代に語り継ぎたいこと～

竹中恵美子 著 (大阪市立大学名誉教授 ドーンセンター前館長)

対談者：伊田久美子 (大阪府立大学教授)

ウィメンズブックスストアゆう/発行 松香堂書店/発売

1050円 2008年4月刊

前館長が語る、渾身の「ドーンセンター論」！

<目次>

第一部：竹中恵美子講演録

私とフェミニズムとの出会い

～次世代に語り継ぎたいこと～

第二部：対談 竹中恵美子×伊田久美子

退任にあたって ドーンセンターを語る

取扱書店 お申し込み ウィメンズブックスストアゆう

HP <http://www.womens-books.jp>

TEL 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115 mail: info@womens-books.jp

〒540-0008 大阪府中央区大手前 1-3-49 ドーンセンター 1F

日本の女性

労働研究も牽引してきた著

者の研究の軌跡。

これだけは、語っておきたい・・・

ドーンセンター館長退任記念

講演を加筆して収録

ドーンセ

ンターはどのようにして

できたのか。ドーンセンター

はなぜ必要なのか。必ず引き継

がれなくてはならないのは、

何なのか。

読んで
ください！

『長谷川テル』～日中戦争下で反戦放送をした日本女性～

『長谷川テル』編集委員会/編 せせらぎ出版 2007年8月刊 1890円
山崎亮一(編集者)

長谷川テルは1912年、山梨県生まれ。日中戦争時に中国に渡り反戦放送を行った希有の日本女性です。

この本は出版と同時に大きな反響を呼び、「朝日新聞」(07年8月18日付け)、「読売新聞」(07年8月14日付けタ刊)にも大きな紙面をさいて報道されました。

出版社には、続々と感動の声が寄せられました。

「戦前の“あの時代”に身を挺して日中友好を実践されたテルさんの行為に感銘を受けました。」

「胸ワクワクの態にてお待ちしていました。戦中、華北の鉄道に勤務した者として、ことに無電の

通信士でしたから、長谷川さんの事を知っていました。多謝！」

以下、朝日新聞の記事の一部を抜粋します。

本の出版は、テルの生き方や思いに共感し、テルの生涯を描いた日中合作ドラマ「望郷の星」(80年)の上映会や勉強会を開いてきた大阪の市民グループが企画した。(中略)中心となった平和・女性問題研究グループ主宰の澤田和子さんが07年初めに倒れ、7月に亡くなった。一時完成が危ぶまれたが、次男の和也さん(41)が遺志を継いで原稿をまとめた。

本には、反戦を訴えたテルの生い立ちや活動の記録、随想文、作品リスト、テルを支えた夫劉仁の人物像、日中戦争時の時代背景などがつづられている。テルの長女暁子さんも、母への思いを寄せている。

執筆者の一人、坂井尚美弁護士(74)は「日本が中国へ侵攻したことが、やがて太平洋戦争の開戦につながっていた。その日中戦争の初めから『戦争をやめろ』と訴え、祖国・日本を愛するがゆえに強い意志で反戦を叫び続けた勇氣ある女性がいいたことを知ってほしい」と話している。

(朝日新聞2007年8月18日 朝刊より抜粋)



ウィメンズブックス

WEBからの風

『ウィメンズ ブックス』のニュース・お知らせなどのページです

ウィメンズブックスストア 2・3・4月ベストセラーTOP5

.....
気づいて乗りこえる長谷川七重+グループおん/著
人と情報を結ぶWEプロデュース 1050円.....
変革期に生きる女たち竹中恵美子/著 ウィメンズブックスストアゆう/発行
松香堂書店/発売 1050円.....
デートDVってなに? Q&A

日本DV防止・情報センター/編著 解放出版社 1365円

.....
「品格」ブームって何? 女も男も 110労働教育センター編集部/編
労働教育出版センター 1860円.....
セクハラ相談の基本と実際

周藤由美子/著 新水社 1050円

原稿募集

書評やアピール、イベント情報などを400字以内でおよせください。

次号の締め切りは**2008年8月5日**です(発行予定日2008年8月25日)

■'ゆう'だより

■ 著者インタビューに登場いただいた結城美恵子さん (「情報からの自立」ユック舎) は、本の中で2ページにわたって「ウィメンズブックスストア」のことも紹介くださっています。「パートII: 自立を支援する「人」と「情報」」の中の「女性情報の売り手」の部分(p134-136)であります!! 拝読して初めて知ったのですが、随分、褒めてくださっています!

お名前とそのお仕事は「ず」と存じ上げていたものの、直接お話しするのは初めてでした。松香堂時代から「ウィメンズブックスクラブ」会員でいてくださったようで (すみません、しっかりと把握してなくて、私は大感激でありました。

■ 大阪府に新しい知事が誕生したことで突然引き起こされたドーナセンタ―廃止についてのあれこれ、悩ましいの一語です。

特に、「情報ライブラリー」について、4月11日に発表された財政再建案 (PT 素案) に「府立中央図書館に移転する」と出ていて驚愕しました。「来館者一人当たりのコストが安い中央図書館に移転」などという理由で、専門図書館を一般図書館に吸収させてどうするのでしょうか。女性センターにある「女性情報」は、相談事業や文化啓発事業と連携しながら、人々が行動し、ネットワークをつくっていくときの基礎となるもの。「あそこ」にない、ダメなのにい!

「財政赤字の中の女性性センター」の役割をどう考え、行政責任をどう果たしていくかの問題なのですが、簡単に「女性センターの機能停止」を提案できること自体が信じられません。

(編集長: 森屋裕子)

「ウィメンズブックスクラブ」入会のご案内

- メール FAX 電話のご注文で迅速発送
- 送料: 会員割引サービス。会員の方には、入金確認前でも発送いたします。
- 年間 900 冊の新刊書籍情報、ミニコミ案内、特集などを掲載した機関誌「ウィメンズブックス」を年 4 回お送りいたします。
- 会員のみなさまの著作紹介、関係する冊子などの委託販売をお受けします。
- 入会は随時受け付けています。詳細はご連絡ください。
- 年会費 (年度は 4 月から翌年 3 月・入会金は不要です)

個人会員	3000 円
海外会員・団体会員	3800 円

女性性センター・女性政策課、 研究室、図書館向けサービス

リストアップ、各種配本の迅速手配、データ管理、コーディングなど

リスト書籍をご希望の方へ

同封の振込用紙の通信欄、又は FAX 注文表に書名、書籍代(消費税込み)を書いてお申送ください。下記の送料共でお振込くださいますようお願いいたします。HP のご注文欄やメール・電話でのご注文もお受けいたしております。

リスト書籍以外のご注文もお受けいたしております。

〈送料〉

個人会員	書籍代 (消費税込み) が 15000 円以上の送料は無料
海外会員・団体会員	書籍代 (消費税込み) が 15000 円未満の送料は上限 300 円 別途請求をさせていただきます

WEBショップ展開中

<http://www.womens-books.jp>

(新刊案内 ゆう刊社長日記 ゆう刊先代日記 ゆう刊あまちゃブログ更新中)

メルマガ 発信中

月一回の配信。編集長からのお薦め新刊本案内が中心です。

登録は info@womens-books.jp までどうぞ

○ 自費出版承ります。ご相談ください。○

店舗 ウィメンズブックスストア ゆう

〒540-0008 大阪市中央区大手前 1-3-49 ドーンセンター1F

電話 06-6910-8627 FAX 06-6910-6115

E-mail info@womens-books.jp

郵便振替口座 00900-5-309395

火～金: 午前 10 時から午後 7 時

土・日: 午前 11 時から午後 6 時 30 分

定休日: 月曜 ドーンセンター休館日